第 30 回 FD・SD フォーラム　20025.3.2　龍谷大学　深草キャンパス

ワークショップ 3　大学とダイバーシティ　14:00-16:30

報告者　田中共子 (岡山大学)「留学交流の場で使えるワークショップの方法」 14:15-15:00
tomo@cc.okayama-u.ac.jp
参考書　『異文化接触の心理学－AUC-GS 学習モデルで学ぶ文化の交差と共存－』
（田中共子著、2022、ナカニシヤ出版）

異文化間教育の立場から、留学生とのワークショップの方法を紹介する。留学生を送り出す立場、受け入れる立場に役立つ試みも取り上げていく。

1. 留学交流の場とワークショップの計画
   - 設定：機会、対象、目的
   - 担当：講師、補助者、使用言語
   - 環境：会場、物品、資料、配布物、広報、報告

2. 背景モデル（モデル出典は上記参考書）
   - 人間理解の三層モデル

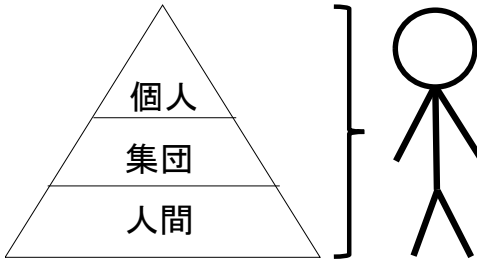

図1　人間理解の三層モデル
人は人間として、集団として、個人としての特徴の三層が重なっている

   - AUC-GS 学習モデル

		レベル	
		文化一般 Culture **G**eneral	文化特定 Culture **S**pecific
段階	気づき **A**wareness	**AG** 異文化の存在への気づき	**AS** 自文化を含む特定文化の存在や影響への気づき
	理解 **U**nderstanding	**UG** 異文化接触一般現象の知識と理解	**US** 特定文化における適応・不適応現象や特定文化自体の理解
	対処 **C**oping	**CG** 異文化接触一般に求められる対応の仕方の原則	**CS** 特定文化の文化的特徴に関わる対応の仕方

3. 異文化間教育と心理教育

・アクティブラーニング

・ワークシート方式

・エクササイズ例

AG:認知地図

AS:移動想定課題

UG:伝達課題

US:事例分析

CG:ホスト版文化アシミレーター

CS:ゲスト版ソーシャルスキル学習

3. 運営の工夫

・構成：グループ、討論、発表

・学習：課題、解説、質疑、総括、応用

・形態：対面、オンライン

4. まとめ：試作プラン

・設定　題＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

対象と人数＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

目的＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・担当　講師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

補助者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

使用言語＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・環境　会場＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

準備物＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

広報＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・エクササイズ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・運用の工夫＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・備考（課題、準備）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿